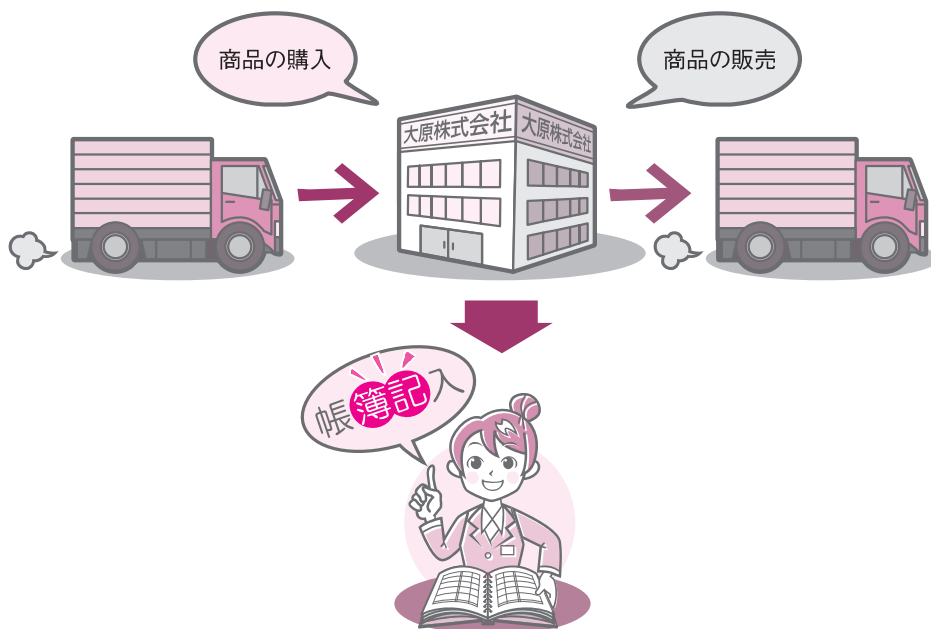


第1節 簿記の目的

1 簿記の意義と目的

(1) 簿記とは

簿記とは、「帳簿記入」の略語として生まれたことばである。企業（商店、会社など）では、商品の購入や販売、広告代や給料の支払いなど、様々な経営活動が行われているが、これらの経営活動を一定のルールに基づいて、分類・整理した上で帳簿に記入する技術が簿記である。



(2) 簿記の目的

企業は、一般に利益を獲得することを目的として活動しているが、企業の維持、発展を図るためには、過去の経営活動について反省するとともに、この反省に基づいて将来の経営についての計画を立てなければならない。そこで、日々の経営活動を帳簿に記入し、一定期日の財政状態と一定期間の経営成績を明らかにする必要がある。

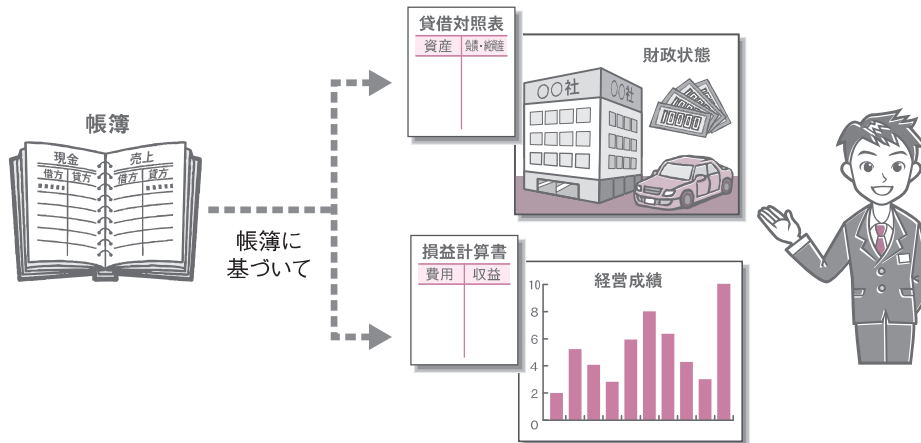
● 簿記の目的 ●

- ① 一定期日の財政状態を明らかにする。
- ② 一定期間の経営成績を明らかにする。

なお、一定期日の財政状態は**貸借対照表**という書類によって示され、一定期間の経営成績は**損益計算書**という書類によって示されるが、貸借対照表や損益計算書などを総称して**財務諸表**という。

財政状態や経営成績などに関する情報は、企業にかかわる様々な人々に利用される。

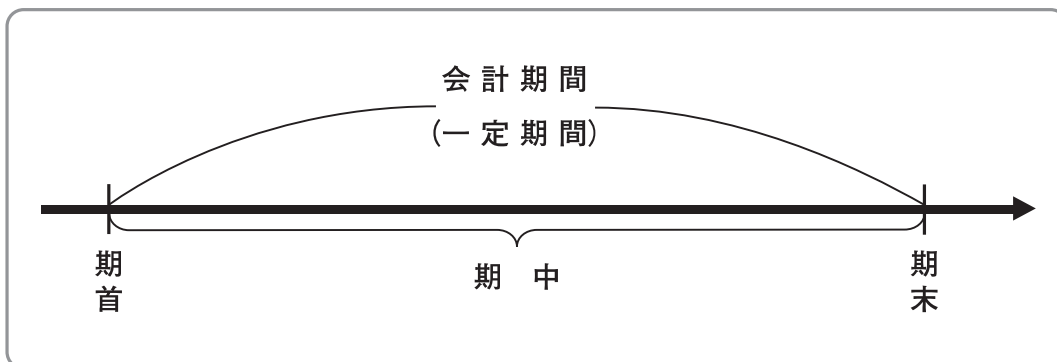
財政状態や経営成績などを明らかにするために簿記は不可欠なものであり、企業にとって重要な役割を果たしている。



2

会計期間

今日の一般的な企業は、解散を前提とするものではなく、継続的に経営活動を行うことが前提となっている。そこで、財政状態や経営成績を明らかにするためには、継続する企業の活動を一定期間で区切る必要があり、この一定期間を**会計期間**という。また、会計期間の開始日を**期首**、終了日を**期末（決算日）**、期首から期末までの間を**期中**という。



簿記3級では、小規模の株式会社を前提として学習する。なお、株式会社とは、株式を発行して資金を調達し、これを元手に企業体を運営する組織をいう。

また、株式会社の場合には、通常1年を会計期間とし、その期間は4月1日から3月31日までなどのように任意に定めることができる。

第2節 財政状態

1 財政状態

財政状態とは、資産、負債および資本の状態をいう。この財政状態は資金をどのように集めたか（資金の調達源泉）、その資金をどのように使っているのか（資金の運用状態）を示している。

● 資金の調達源泉と運用状態 ●

資金の調達源泉（資金をどのように集めたか）

負債（将来金銭などを支払わなければならない義務）

…借入金など

資本（資産から負債を差引いた金額で、企業の正味の財産。純資産ともいう）

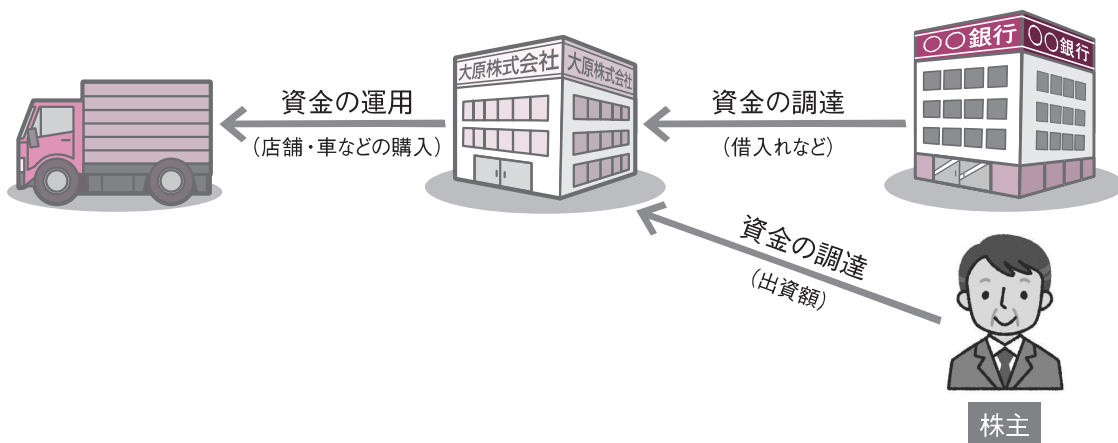
…資本金など

なお、資本金についての詳細は後述する。

資金の運用状態（資金をどのように使っているか）

資産（金銭価値であらわすことができるものや、将来金銭などを受取れる権利）

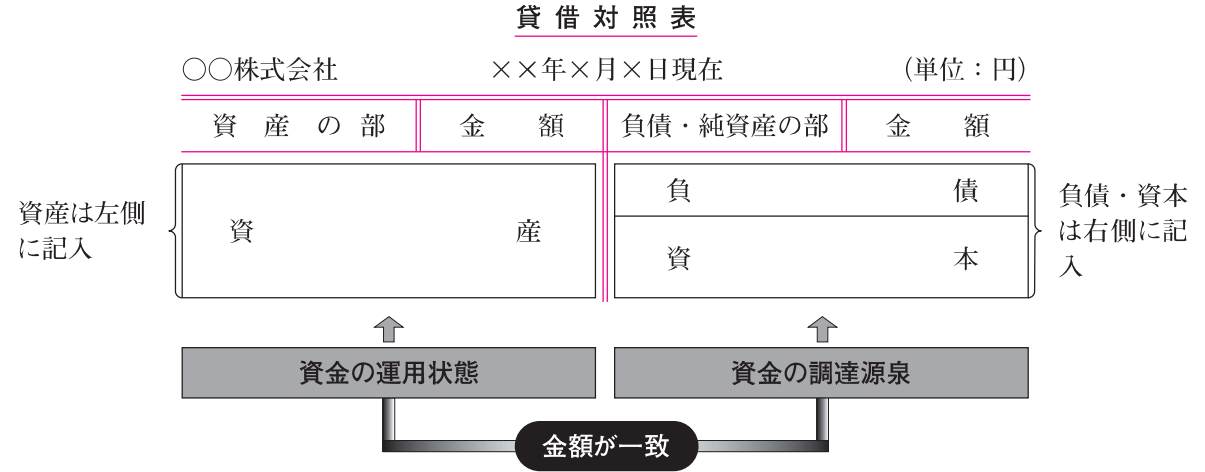
…現金、建物、備品、車両運搬具、土地、貸付金など



※ここで **練習問題 1-1** を解いて下さい。

2 貸借対照表 (Balance Sheet: B/S)

貸借対照表とは、資産、負債および資本を記載し、一定期日の財政状態を示すための書類をいい、次のような形式になる。



(注) 資本は貸借対照表上、純資産の部に表示する。

● 範例 1 - 1 ●

次の資料に基づいて、大原株式会社の貸借対照表を作成しなさい。

- 現金 ¥15,000 備品 ¥10,000 車両運搬具 ¥25,000
- 借入金 ¥20,000 資本金 ¥30,000

貸借対照表

大原株式会社 ××年××月×日現在 (単位：円)

	資 産 の 部	金 額	負 債 ・ 純 資 産 の 部	金 額	
	現 金	15,000	借 入 金	20,000	
	備 品	10,000	資 本 金	30,000	
	車 両 運 搬 具	25,000			
		50,000			
				50,000	↑ 合計線
				50,000	↑ 締切線

余白線

↑

(注) 合計線、締切線、余白線は朱記する。

※ここで **練習問題 1 - 2** を解いて下さい。

資産や負債は、経営活動を行うことにより日々変動する。よって、貸借対照表を作成するためには、日々変動する資産や負債をもれなく記録しておく必要がある。

第3節 経営成績

1 経営成績

経営成績とは、一定期間の収益および費用ならびに利益または損失の状況をいう。この経営成績は、一定期間に得た利益または損失がどのような原因でいくら生じたのかを示しており、利益または損失は一定期間の収益と費用の差額として計算される。

これを算式で示すと次のとおりである。

$$\text{収 益} - \text{費 用} = \text{利 益}$$

なお、利益には様々なものがあるが、一定期間のすべての収益とすべての費用の差額として計算される利益を**当期純利益**という。

● 収益と費用 ●

収 益（資本が増加する原因）

…売上、受取手数料、受取利息など

費 用（資本が減少する原因）

…仕入、給料、広告宣伝費、水道光熱費、消耗品費、支払手数料、雑費、支払利息など

※ここで **練習問題 1-3** を解いて下さい。

2 損益計算書（Profit and Loss statement:P/L）

損益計算書とは、**収益と費用**を対比させ、**当期純利益**を表示し、一定期間の**経営成績**を示すための書類をいい、次のような形式になる。

損 益 計 算 書

〇〇株式会社 自××年×月×日 至××年×月×日 (単位：円)

	費 用 の 部	金 額	収 益 の 部	金 額
費用は左側に記入	費	用	収	益
	当 期 純 利 益			
		↑		↑

金額が一致

収益は右側に記入

(注) 当期純利益は、収益から費用を差引いて求め、朱記する。

なお、収益に比べて費用が多い場合には当期純損失となるが、この場合の損益計算書を示すと次のとおりである。

損益計算書

〇〇株式会社 自××年×月×日 至××年×月×日 (単位：円)

費用の部	金額	収益の部	金額
費	用	収	益
		当期純損失	

(注) 当期純損失も朱記する。

● 範例 1 - 2 ●

次の資料に基づいて、大原株式会社の損益計算書を作成しなさい。

大原株式会社の当期の収益と費用は次のとおりであった。なお、当期に仕入れた商品はすべて売上げたものとする (会計期間：4月1日～3月31日)。

(1) 収益

売上 (当期に売上げた商品の売価) ￥100,000

(2) 費用

① 仕入 (当期に仕入れた商品の原価) ￥45,000

② 給料 (従業員への支払い) ￥12,000

③ 水道光熱費 (水道代、電気代など) ￥10,000

④ 消耗品費 (事務用品の購入代金など) ￥8,000



損益計算書

大原株式会社 自××年4月1日 至××年3月31日 (単位：円)

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	45,000	売上高	100,000
給料	12,000		
水道光熱費	10,000		
消耗品費	8,000		
当期純利益	25,000		
	100,000		100,000

(注) 損益計算書上、売上は「売上高」、仕入は「売上原価」と表示する。

補足 当期純損失が生じた場合

売上が¥50,000であった場合の損益計算書を示すと次のとおりである。

損益計算書

大原株式会社 自××年4月1日 至××年3月31日 (単位：円)

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	45,000	売上高	50,000
給料	12,000	当期純損失	25,000
水道光熱費	10,000		
消耗品費	8,000		
	75,000		75,000

※ここで **練習問題1-4** を解いて下さい。

参 考

貸借対照表等式

負債と資本は資金の調達源泉を示し、資産は資金の運用状態を示しているため、資産の合計金額と、負債と資本の合計金額は一致する。この関係を算式であらわすと次のとおりであり、これを**貸借対照表等式**という。

$$\text{資 産} = \text{負 債} + \text{資 本}$$

資本等式

資本は資産と負債の差額として計算することができる。この関係を算式で示すと次のとおりであり、これを**資本等式**という。

$$\text{資 本} = \text{資 産} - \text{負 債}$$

損益計算書等式

当期純利益は収益と費用の差額として求められるため、収益の金額と費用および当期純利益の合計金額は一致する。この関係を算式で示すと次のとおりであり、これを**損益計算書等式**という。

$$\text{費 用} + \text{当期純利益} = \text{収 益}$$